

先週のマーケット動向(8月9日～8月13日)

為替、株式

	Open	High	Low	Close	Chg
USD/KRW	1,146.5	1,169.5	1,142.6	1,169.0	+26.9
JPY/KRW	10.3981	10.5932	10.3725	10.5907	+0.193
KOSPI	3,258.10	3,275.15	3,146.76	3,171.29	▲99.07

(Source: SMBS, Bloomberg)

先週のドル/ウォン相場は大幅に上昇した。8月6日の米7月非農部門雇用者数(実績:943千人、予想:870千人)が良好な結果となったことを受けて上昇し1,146.5ウォンでオープン。9日にはドル/人民元の下落に連れて週安値1,142.6ウォンを付けた。しかし、韓国国内でのCOVID-19の新規感染者数が過去最多を更新したことや米インフレ指標を控えた警戒感等からドル/ウォンの下値が固くなった。さらに12日にはD-RAM単価の下落や需要鈍化を背景に、半導体業界がピークアウトすることを予想したレポートが発表されると、外国人投資家の株売りが大幅に入り、ドル/ウォンは大幅に上昇。外国人の株売り規模が過去最高となる週7兆ウォン超になると、ドル/ウォンは13日に週高値1,169.5ウォンまで上昇した。同日日中にはドル/ウォンの急激な動きを緩和させるため韓国銀行のドル売り介入と観測される動きもあったものの、最後までウォン売りの流れは変わらず。結局、先週末対比26.9ウォン上昇の1,169.0ウォンにてクローズ。

今週の見通し

今週のドル/ウォン相場はやや底堅い展開を予想する。アフガニスタンがタリバンに制圧されたことで地政学リスクが意識されつつあることに加え、半導体市況への不透明感からくる外国人による株売りもあり、足許ではドル/ウォンが上昇しやすい状況となっている。ドル/ウォンの急上昇を防ぐため韓国中銀による介入と思われる動きは見られているものの、これによってドル/ウォンの上昇速度を落とすことは出来ても、方向感を変えることは出来ないだろう。さらに週後半からは米ジャクソンホール講演への期待感を材料にドル買いが進む可能性もあり、ドル/ウォンの上昇が継続することを予想する。

予想レンジ

USD/KRW	JPY/KRW	USD/JPY
1155 ~ 1180	10.55 ~ 10.85	108.3 ~ 110.3

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

* USD/KRW chart (source: Bloomberg)



* JPY/KRW chart (source: Bloomberg)



今後の予定

- 16日(月) 日 6月 鉱工業指数 確報値
- 米 8月 NY連銀製造業指数
- 中 7月 鉱工業生産
- 中 7月 小売売上高
- 日 2Q GDP 速報値
- 17日(火) 欧 2Q GDP 改定値
- 米 7月 小売売上高
- 米 7月 鉱工業生産
- 18日(水) 欧 7月 CPI 確報値
- 米 7月 住宅着工件数
- 日 7月 貿易統計
- 日 6月 機械受注
- 米 FOMC議事録
- 20日(金) 日 7月 CPI